



▲黒田講堂

【黒田講堂】

五福キャンパスの正門から入って右手にある楕円形の白亜の建物は黒田講堂と呼ばれ、学内の各種講演会、公開講座、学会・研究会及び学生のサークル活動等で広く利用されています。

今の黒田講堂は、平成元年11月、黒田善太郎氏(コクヨ株式会社前会長)の遺志を受け継いだ黒田暉之助氏(コクヨ株式会社社長)、黒田靖之助氏(コクヨ株式会社前社長)並びにコクヨ株式会社の全額寄附により新たに建設されたものです。講堂に入って右手の壁の銘板には、黒田善太郎氏が記した「天職を全うせよ」と本学の成長を祈る一文が刻まれており、今も本学の発展を見守っています。

【立山マルチヴァース講義】

新大学の全教員が協力・連携し、各キャンパスの伝統と特色を活かして実施する、3大学統合の象徴というべき授業です。「感性をはぐくむ」「富山学—わたしの富山」「心(こころ)、身体(からだ)、そして生命(いのち)」の3科目からなります。教養教育の一体化に向けた第一歩として、いずれのキャンパスでも受講できるよう、全キャンパスを3年で一巡するローテーションで開講しています。また、双方向遠隔授業システムを利用し、他のキャンパスで開講される科目も受講できます。



▲杉谷キャンパス

【杉谷キャンパス】

五福キャンパスから車で走ること15分、小高い呉羽丘陵の緑の森にそびえたつ白い建物群が見えて来ます。それが杉谷キャンパスです。

豊かな自然環境の中、勉学に課外活動にと勤しむ学生達。笑顔が弾み、笑い声がこだまします。

本キャンパスには、医学部(医学科・看護学科)、薬学部(薬学科・創薬科学科)及び大学院医学薬学教育部(修士・博士)があり、附属病院や特色ある和漢医薬学総合研究所が併設されています。

名実ともに薬の富山を象徴した施設として、和漢医薬学総合研究所の民族薬物研究センターには民族薬物資料館があり、世界各国の民族薬物と薬学研究資料を保存・展示しています。また、薬学部附属薬用植物園では2,000種にも及ぶ薬用植物の栽培を行っています。



▲民族薬物資料館

キャンパス散策(富山大学)



富山大学の教育・研究体制は平成17年10月、県内3国立大学の統合・再編により大きく変化しました。本学は人文、人間発達科学、経済、理、医、薬、工、芸術文化学部の8学部、和漢医薬学総合研究所と大学附属病院を加えた10部局体制になり、多種多様な教育・研究資源を擁する、日本海沿岸部有数の基幹的な総合大学として再出発しました。

新富山大学は、「地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化と人間社会の調和的發展に寄与する」を理念として掲げています。

本学は統合以前から地域の伝統文化と産業を最も重視し、同時に海外、特にアジアに眼を向けた教育・研究を積み重ねてきました。

本学はこれらの成果を発展的に継承し、東アジア・環日本海に臨む立地条件を最大限に活かして、現代社会の根源をなす西洋文明の系譜に、日本及びアジアの歴史・伝統文化・精神を融合させる「知の東西融合」の拠点化を目指しています。



▲五福キャンパス

【ヘルン文庫(中央図書館)】

附属図書館(五福キャンパス)に所蔵されているヘルン文庫は、「怪談」の著者ラフカディオ・ハーン(1850~1904:日本に帰化して小泉八雲と称した。)の旧蔵書で、洋書2,069冊、和漢書364冊及び「日本:一つの解明」(「神國日本」)の手書き原稿1,200枚(洋書2冊分)からなります。文庫の紹介並びにハーン関連情報は、中央図書館ホームページで公開されています。



▲ヘルン文庫



▲『神國日本』



チョウセンゴミシ

果実を五味子(ごみし)といい、鎮咳去痰薬として用いられる。滋養強壮作用などもある。



ツリガネニンジン

山菜としても知られ、若葉は食用となる。根は乾燥して去痰薬とする。

【高岡キャンパス】

富山大学高岡キャンパスは、高岡市郊外の二上山ふもとにあり、前身の高岡短期大学が平成17年10月に県内国立3大学の再編・統合により新たに芸術文化学部（4年制）として生まれ変わりました。

このキャンパスがある高岡は、加賀藩2代藩主、前田利長が城を築き、鑄物産業を拓いた街であり、漆・金属・木工等の伝統産業が今日も生きている都市です。この高岡の地域全体をキャンパスとして、現役の

匠たちやその現場に直に触れながら学べる環境です。このキャンパスでは、多彩な個性を持った学生たちが、落ち着いた環境と開放的なキャンパスでゆとりある学生生活を送っています。



▲高岡キャンパス

【「駅地下芸文ギャラリー」の開設】

JR高岡駅地下街の賑わい創出と「ものづくりのまち」として知られている地元高岡市の魅力を深めるため、高岡市、商工会議所、富山大学芸術文化学部など関係機関が連携し、それぞれの得意分野を生かしながら中心市街地の活性化と地下街の賑わいを創出する公益的な試行店舗「駅地下芸文ギャラリー」を開設しました。

企画・展示は芸術文化学部が担当し、教員や学生の作品はもとより高岡の企業や作家等の作品展示、地域のアートイベントとの連携など多彩な催しを予定しています。



▲駅地下芸文ギャラリー